

「協同労働のもつ良さを生かしての地域づくり」

小菅 恵子（ワーアカーズコープけやき）

5年前、自分自身の自己実現と、地域のニーズを感じて始めたホームヘルパーの活動を、協同組合の形で事業化したことは、（１）良い仕事をして地域に貢献できるという目標と（２）その目標を実現するために仲間づくりができたこととが、一番の収穫であった。理想の働き方は、自分の考えていることをしっかり発言でき、その考えに共感してくれる人々と協同して働くこと。こんな働き方なのではないだろうか。

協同労働を“共感、配慮、責任感”をもった労働と理解するならば、この働き方こそ、ホームヘルパーとしての働き方に相応しい働き方なのではないかと実感している。

そんな協同労働の働き方の中から学んだ人と人との関係づくりは、地域の様々な活動の場でいかせるのではないだろうか。地域の中で、何かしたい、新しい自分を発見したい、今までできなかったことに挑戦したいという人たちが、ちょっとしたきっかけで生き方を変えていく。そんな活動ができないだろうか。

そんな活動の拠点として6月下旬よりはじめたのが、「ホッとステーションさくらはうす」である。月曜日はパソコン講座、火曜日は書道講座、篆刻講座、水曜日は絵手紙講座、木曜日は男性の料理講座、金曜日は手づくり講座を、市の広報で募集して60名の方たちと出会うことができた。現在までに延べ人数331の方がこの活動に参加されている。

それぞれがいろいろな思いで参加されているが、何人かの方がこの活動の趣旨に賛同されて、協同の働き方に発展しそうな方向も見えはじめている。

協同労働の内包している人間の潜在能力を引き出し、さらに豊かにする。そんなプラス面を生かした活動を孤立化した地域の中での新しい人間関係づくりに生かして、あらたな地域貢献のできる仲間づくりをしてみたい。